

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 1月 20日(金)

その2 通算 298号

◇ どうする? → こうする私 こうする常磐東

約 40 年ぶりに徳川家康を単独で主人公とする NHK 大河ドラマが 2023 年に放送されるにあたり、8 日の「プレミアリレー in 岡崎」に続き、家康生誕の地・岡崎市に、明日 1/21(土)に【大河ドラマ館(※岡崎公園内・三河武士のやかた隣接)】がオープンする。詳細は岡崎市 HP で→→→<https://okazaki-kanko.jp/dousuru-taiga>



大河ドラマ【どうする家康】の世界観を楽しむ大河ドラマ館は、家康や三河武士に関する展示もあり、見応え十分との触れ込みだ。8 日(日)からはドラマの放映も始まり、機運に乗って岡崎市が活気づくのは、大変うれしいことだ。

さて、大河ドラマでは、初回放送から「決断を迫られ、『どうする…どうする…』と、狼狽える」家康が登場。タイトルの所以はここにあるのだろう。どちらかと言えば「鳴かぬなら、鳴くまで待とう杜鵑」のようにどっしり構えた印象が深いのが徳川家康。その人物像とは真逆の姿であるだけに、ここからの変化が見ものである。

岡崎市役所では、観光推進課・家康公係に加え、【「どうする家康」活用推進課】が増設されるなど、大河ドラマブームに乗れとばかりに経済振興に力を入れている。

このように、語呂のよさと言いやすさ、使いやすさなどから、大河ドラマにあやかっただ「どうする」は、今後、様々な語句や名称、固有名詞の接頭語として 2023 年を賑わすことになるだろう。

とは言え、先にも述べたように、このドラマの見所は、直面する難題を前に、「どうする」と狼狽する家康が、きっぱりと英断を下し、難局を乗り越えて業を成し遂げるところにあるといえる。それが清々しく、格好よく、観る者を引き付けるのだ。丸く収まるあたりは、日本人が大好きな水戸黄門的であるとも言える。つまり、タイトルは「どうする」であるが、中身は【こうする】なのである。

2023 年、常磐東の子供たちには、【こうする◎◎※自分の名前】であれと願う。この力の集約と決意の集約、そして成果の集約が【こうする常磐東】をつくるのだ。